

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4698900018		
法人名	有限会社 笑風会		
事業所名	ブルーホーム ゆい		
所在地	鹿児島県奄美市笠利町喜瀬2437-1		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のご家族の方や地域の方が気軽に施設に足を運べるような和やかな雰囲気であるように努めています。また地域の方々グループホームや認知症のお年寄りに対する理解を深めていただくためにホームの夏祭りやイベントなどに参加して頂いたり、職員や家族会の方が地域の一人として集落海岸清掃などに参加し地域の方とも顔なじみの関係を作り上げています。また入居者様が「豊かにゆったりと自分らしい生活ができる」ために職員は常に入居者様の状態把握や体調管理を行い病院との連携に努め、入居者様が体調のいい日には買い物やレストランでの食事会、ドライブ、ピクニックといままでの生活と変わらない活動ができるように支援しています。時には職員に島料理を教えながら一緒に料理を作っていたりしています。お年寄りから知恵を頂きながら職員は働いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、利用者は敬老会に参加している。集落の美化作業に、家族も協力するなど、地域に家族ごとつながりができて、日常的に交流している。運営推進会議は、運営について参加者に助言をもらい、地域との交流につながっている。会議の内容も家族・職員に報告し、ケアに活かされている会議になっている。利用者の馴染みの方の訪問や、自宅周辺やスーパーなどへのドライブや買い物に出かけたり、砂糖工場・郵便局へと個別に希望に添って支援したり、馴染みの人や場との関係継続に力を入れて努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し目に付きやすい玄関、事務所に掲示し職員は毎朝申し送り後に理念の唱和を行い「豊かにゆったりと自分らしい生活ができるよう」に支援し実践につなげる様になっている。	理念に「地域の人々との強いきずなを育みま	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の美化活動である海岸清掃に参加している。また集落のコミュニティセンター落成式や敬老会へ入居者も参加。施設長は集落の常会に参加している。島の行事にも施設で参加しており近所の方から果物、野菜などいただいている。	自治会に加入し、利用者は敬老会に参加できている。集落の美化作業に、家族も協力するなど、地域に家族ごとつながりができて、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会へ地域の方に参加して頂いたり、グループホームの夏祭りにご家族や子供会、地域の方々にも参加いただき、入居者様と共に過ごしていただく事で認知症に対する理解を深めてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、ゆいだよりを配布しグループホームの活動内容や今後の取り組み等を報告話し合いをおこなっている。その内容などをご家族へメールにてお知らせしている。また職員会議でも報告しサービス向上に生かしている。	運営推進会議は、年6回開催され行政の協力ももらえている。事業所の状況報告や運営について参加者に助言をもらい、地域との交流につながっている。会議の内容も家族・職員に報告し、ケアに活かされている会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議に出席されている。入居者や事業所等の書類提出など市町村窓口まで出向いたり、電話連絡やメールなどで連絡を取りながら連携を図っており、協力いただいている。	運営推進会議で事業所の状況報告をして、書類の記入方法など相談をしている。笠利町の農村フェスティバルに「ゆいコーナー」を作り、写真を展示して利用者と一緒にグループホームゆいを紹介するなど、町との連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしておらず、職員会議でも日々のケアの中で身体拘束に当てはまらないかを意識してもらっている。また入居者様の行動を常に把握できるよう職員間の連携を取っている。	職員会議の中で身体拘束になる行為について、話し合っている。日中の玄関の施錠はしていない。身体拘束についての研修計画がとられていない。	グループホームでの指定基準における禁止の対象となる具体的な行為や言葉での拘束が正しく理解できるようにマニュアルの充実を図り、身体拘束をしないケアの向上に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で高齢者虐待防止法を取り上げ、職員全員が周知しており、ニュースなどで取り上げられた際ミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加し内容を職員会議で説明し必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は、ご本人、家族の不安や疑問点を聞きながら十分な説明を行ない理解、納得されるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方も運営推進会議に参加しており意見なども頂いている。また訪問時にはこちらから「何かございませんか?」と問いかけをし、気軽に意見が言える雰囲気で作るようしている。意見は職員にも周知運営に反映させている。	家族会を夏祭りのイベント後に開催しているが、家族の意見があまり出ないのが実情である。面会時等の要望は、職員間で共有し運営に反映している。	無記名アンケートなど家族の意見や思いを表せる工夫をされ、アンケートの結果から職員の自己評価や業務改善会議を開き、運営に反映させ、更なるサービスの向上に活かされることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見や要望は運営に反映させるようにしている。	管理者は、毎月の職員会議にて、職員の意見や提案を聞いている。勤務時間の変更を行い、業務改善が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や努力、実績を把握し給与UPを行なっている。研修など向上心ややりがいをもって働けるように希望によっては勤務交代や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には夜勤者以外は参加している。法人外研修では職員の勤務交代などでそれぞれ職員が参加できる取り組みをしている。研修に参加できる職員は増えてきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者と事前に検討し他施設の行事に入居者と職員で参加。他施設と交流することでネットワークが広がりサービスの質の向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご本人、家族から要望や不安な点などを聞き、安心していただけるようゆっくり時間をかけて説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する際に、ご家族と時間をかけて面談をし困っている事、不安な事、要望などに耳を傾け、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の話される内容を聞き出し、入居条件の説明や、他のサービス利用の検討、紹介なども行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と家族の一員として共に台所に立ち、人生の先輩である入居者から島料理を教えてもらうなど、共に暮らしている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には本人の部屋にてお茶を飲んでいただき、ゆっくり過ごしていただいている。また職員も合間に参加し日頃の様子などを伝えている。本人の体調が優れないときにもご家族は会いに来られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人、友人がいつでも訪ねてくれる雰囲気作りに努め、スーパーへの買い物や慣れ親しんだ場所へのドライブなど行なっている。	神父さんや利用者の馴染みの方が訪問していただき、継続されるように努めている。自宅周辺やスーパーなどドライブや買い物に出かけている。砂糖工場・郵便局へと個別に希望に添って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気まずい関係にならないように、また孤立しないように職員同士情報を共有し、食堂の席の配置を工夫したり、お互いが支えあえるように知恵を出し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、入院されたときには管理者、職員はお見舞いに行ったり相手先のSWと今後の事などを相談、支援などをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、汲み取るように心がけ本人が少しでも安心して生活できるように支援し、表情や言動からも把握するように努めている。	利用者との会話や仕草からや、職員会議・申し送り等で職員の気づきを出し合い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅訪問をしご家族の方からの情報やご本人からのお話しなどを伺い、これまでの生活歴や職歴、生活状況などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの1日の生活の流れや体調、気分などを把握し、日中の過ごし方や夜間の状況など細かく職員間で申し送り、心身状態の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは本人、家族、職員からの意見を聞き作成している。作成した後読んでもらっている。必要に応じてケアカンファを行い、プランの変更を行なっている。	計画担当者が、職員の意見を聞いたり、記録を見て3ヶ月毎にモニタリング・評価を行い、介護計画を作成している。	利用者の担当職員や介護計画の支援者になっている家族に毎月のモニタリングをしてもらい、チームで介護計画に携わり、内容を理解して、利用者の現状に即した介護計画ができる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察、(食事、排泄、心身状況)実践状況について毎日個別に記録し業務日誌など含め、職員は毎日目を通して共有している。またケアの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の入居者の状況にあわせて業務に捉われない柔軟なサービスを行なっている。外出、ドライブ、レクリエーションなどその時々にあわせた取り組みを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が豊かな暮らしを継続して過ごせるように地域の行事への参加や、地域の方も参加できる夏祭りをを行い、豊かに暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、納得された協力医療機関と連携をとっています。月2回の定期受診を行ない、他科受診の際も家族の希望する医療機関を受診しています。	協力医療機関に月2回の往診をしてもらい、結果を家族に報告している。専門医への受診も紹介状にて、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や体調の変化など職員は常に観察を行い、容態急変時には、かかりつけ医や看護師に連絡が取れるように連携を図っている、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の際は、管理者・職員はお見舞いに行き、経過や今後について病院のSWと相談、連携を取って安心した治療ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針についての話は、入居時や、必要と思われるときには、かかりつけ医と相談の上事業所でできることを十分に説明しながら、ご家族と話し合いを行なっている。	入所時の契約書に、利用者の症状・心身状態が著しく悪化した時は、家族と相談の上判断すると文書化し、家族に説明している。看とりは、今まで行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてのマニュアル作成やホットラインも設置されており、緊急時の対応や応急手当の対応もミーティングで行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。消防署の立会いのもと消火器を使つての消化訓練をおこない入居者も参加している。地域の自衛団との連携も取れている。	定期的な訓練以外に自主訓練を2回実施している。海が近いので、チリ地震の津波予報時に、体育館へ車で避難したことがあり、地域との連携もできて良い経験になっている。食料の備蓄はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者を含め職員は常に入居者の人格を尊重しプライバシーを傷つけない声掛けや対応を心掛けている。職員は毎朝理念を唱和しており人格を尊重した対応を心掛けている。	理念の中に利用者の尊厳を遵守すると掲げ、個人情報の保護について研修を行っている。研修の内容が記録に無く、口頭で伝えている。マニュアルの内容も個人情報の保護についてのみである。	個人情報保護法だけでなく入浴・トイレでの羞恥心への配慮・声かけ等を組み込んで、マニュアルを充実し研修を行い、記録に残すことを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の好みや思いなど日頃から把握するように努め、自己決定できる雰囲気を作っている。自己決定できないときは、表情、動作から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の気分や体調に合わせた支援を行なっている。またご本人の職歴、生活歴を家族から情報を得、その人のパターンなど把握するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得て季節の衣替えを行なっていたり、その際必要なものを準備して貰いその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。髪も希望にあわせてカットやヘアカラーなど行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	島料理など得意とする料理を職員に教えながら一緒に台所へ立ったり、野菜の準備を手伝ってくれたり出きる範囲で手伝っていたり楽しいコミュニケーションの時間となっています。	利用者の力量に応じて、調理など手伝ってもらっている。レストランでの食事・おにぎり・卵焼きを作って戸外での食事など利用者の楽しみになっている。職員も昼食と一緒に食べ、会話しながら家族的な雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い栄養摂取に心がけ、献立や食事量、水分摂取の記録をし職員間で把握し、足りない分は補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛けを行い、ご自分でできる方は見守りを行なっている。出来ない方は職員が歯磨きを行い、口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況の把握を行ない、本人の状況を観察、定期的にトイレ誘導や声掛けを行ないトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。個々のサインも見逃さず対応している。	パットやリハビリパンツの方がほとんどであるが、日中は、誘導や声かけと個々のサインの察知で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食品や水分を多めに摂っていただき、腹部マッサージを行ったり、定期的にトイレへ誘うなど便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴への声掛けを行なって希望があればいつでも対応できるように支援している。一人で入浴を希望される方には常に見守りを行っており、個々にそった支援をしている。	利用者は、週に2～3日入浴している。希望すれば毎日でも可能である。入浴を拒む方には、「今日はお風呂の日」とカードを作り、入浴日を把握してもらい、実施できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態観察を行い日中休息していただいたり、夜間の安眠確保の為に活動的に過ごしていただき(レクリエーション)夜間安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、目的、副作用、用法や用量について理解しており、飲み残しや漏れがないように注意している。与薬後の状態観察も行い症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事、役割、楽しみごとを把握し本人の出来る範囲で一緒におこなうようにしている。できたときにはお礼を述べるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員との買い物レクでスーパーへ出かけたり、天気の良い日には近くの公園で手作りお弁当を食べたり、入居者の希望に応じてレストランでの食事会を実施するなど戸外へ出かけられるように支援している。	事業所は、いろいろな計画を立て、戸外へ出かけられる支援をしている。日常は、ウッドデッキでお茶を飲み日光浴・外気浴を楽しんでいる。利用者の希望で郵便局へ出かけ、郵便局の職員の協力をもらい本人の思いを叶える支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方は、職員と共に買い物に出かけご自分で支払われている。病院への支払いなども行なっている。支払った後はご家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を入れたい要望があればかけてあげる支援や、年賀状作成、お礼等のお手紙などをご家族やお孫さんにお出し、ご家族との繋がりを大事にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節をまめに行いながら空気の入替えや、紫外線対策(レースのカーテンなどで)を行い、ホールには利用者と職員で作った作品等も飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂には、食卓テーブルと椅子、テレビの前にはソファが配置され、日中は食卓テーブルで過ごしたり、ソファでテレビを観たり、職員とトランプやゲームを楽しんでいる。トイレには、温水シャワーが取り付けられ、汚染時に風呂場まで行かずに洗浄ができる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けやひとり掛けのソファがあり、一人の時間や気の合った仲間との時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を居室に置いてあり、ご本人とご家族が相談され季節の変わり目などは入れ替えなどを行なっていたり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッドが備え付けになっている。利用者の好きな写真・ぬいぐるみ、タンス・椅子等の家具を持参して、利用者それぞれの個性のある部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるように手すりの設置をしており、廊下には障害物は置かないようにしている。車椅子もゆったり使用できるようにしている。できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		